

## 第1節 アンケートの概要

2009年6月の創業以来、株式会社 外為どっとコム総合研究所は、その設立母体である株式会社 外為どっとコムの協力を得て、毎月定期的に外国為替保証金取引(FX)投資家動向に関するアンケートを実施し、その結果を公表している。調査対象は株式会社 外為どっとコムに口座を開設している顧客層であり、2010年6月の第13回調査から2011年5月の第24回調査までの1年間の回答者数は、延べ1万8千人近くに達している。

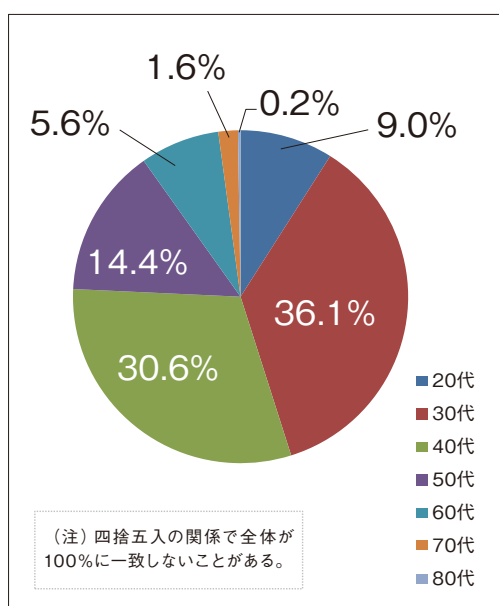
回答者集団の内訳を見ると、男女比では男性が81.4%、女性が18.6%となっている。年齢別に見ると、最も割合が多かったのが30代の36.1%で、以下40代が30.6%、50代が14.4%、20代が9.0%、60代が5.6%、70代が1.6%、80代が0.2%の順番で続いている。30代から50代にかけてのミドル・エイジを中心に、かなり幅広い年齢層の投資家群がFX取引に参画している様子が見てとれる。

「日本の個人投資家」というと、比較的高齢の富裕層が中心とのイメージが強いが、今回の調査に回答を寄せた「FX投資家層」の年代別の分布を見ると、青年層から壮年層までの比率が圧倒的に高く、「40代以下」で75.7%と4分の3以上を占めており、「50代以下」では全体の90.1%と9割以上に達している。株式、債券、投資信託などの伝統的な金融商品を購入する投資家層に比べ、平均年齢の低いことがFXの特徴であることを示している。

また、地域別の回答者数の分布を見ると、関東地区の41.8%を筆頭に、近畿地区が19.7%、中部地区が15.5%、九州沖縄地区が7.7%、東北地区が4.4%、中国地区が4.3%、北海道地区が3.5%、四国地区が3.1%の順番で並んでいる。関東地区の比率が日本の人口分布と比較しても突出して高く、平均的な本邦FX投資家層の愛称としてよく使われる「外為太郎」や「ミス・ワタナベ」は、首都圏在住の30-40代の男女ということになりそうだ。

なお、2010年8月の第15回調査以降、本アンケートは名称を外為短観と改めて外為どっとコム総合研究所のホームページで毎月公開している。最新調査の結果についてはそちらを参照して頂きたい。

◆ アンケート回答者 年代別分布



◆ アンケート回答者 地域別分布

